

# The 11th TRIZ Symposium in Japan 2015

Open up your Future with Creativity

## 第11回日本TRIZシンポジウム2015 閉会にあたって

2015年9月3日（木）～4日（金）  
国立オリンピック記念青少年総合センター

NPO法人日本TRIZ協会  
副理事長 前古 護

## 第11回の日本TRIZシンポジウムを振り返って

今年度も昨年に引き続き2日間(平日)のシンポジウムとして実施しました。  
今年も企業関係者の参加者が多かったと思います。  
参加企業の事業規模の拡大と業種の拡がりを感じます。  
また今後は、大学関係者の参加も積極的に働きかけていきたいと  
考えております。

### • チュートリアル

今年も、例年通り第1日目の午前中にチュートリアルを実施しました。  
TRIZ協会運営の「新しい時代の教育研究分科会」主査である黒澤氏に  
技術システムはTRIZの鍵であるとしたわかりやすい解説を頂きました。

## • 特別講演

1日目午後は、福原證氏によるQFDを軸とした新市場における製品企画の特別講演を配置しました。昨年はタグチメソッド、今年はQFD（品質機能展開）と各方法論の実務第一線で活躍されている著名な先生方を招いて特別講演を企画・開催できたことは良かったと思います。

\*一般発表の中にもTRIZの関連技法として、QFDやTMとの連携やイノベーション活動とTRIZとの関わりなどの事例も増してきており、TRIZ活用の拡がりを感じさせ、有意義であったと思います。

## • 基調講演

2日目午前は、ワレーリー・プルシンスキー氏の基調講演を配置しました。TRIZマスターによる最新の活用法を紹介してもらい、今後の有効活用にむけ大変参考になったと思います。シンポジウム前日にも「ハイブリッド法」につき、半日特別セミナーを開催しました。

## 第11回の日本TRIZシンポジウムを振り返って

- 一般発表は、オーラル発表が1日目10件＋2日目10件、ポスター発表は、2日目実施で5件と合計25件の実績でした。来年も今年以上の発表者を期待したいと思います。
- 参加者について、国内からの参加者は残念ながら減ってしまいました。シンポジウムの内容を一層魅力的にすること、各団体との連携や広報活動の強化など一層の工夫が必要かと思えます。海外からの参加者に関しては、ここ数年少なくなってきたものの、今年は台湾とマレーシアから発表者にお越し頂きました。  
■参加者数（国内・海外）      • 昨年：134名    →    今回：111名  
来年の第12回大会は、より多くの参加者を集められるようワクワクするシンポジウムを企画していきたいと思っています。  
皆様方のご協力も是非ともお願いいたします。

## 第11回の日本TRIZシンポジウムでの協力団体

- 後援：品質工学会、日本知財学会
- 協賛：日本設計工学会、日本科学技術連盟、日刊工業新聞社、  
応用統計学会、日本創造学会、  
日本バリュー・エンジニアリング協会、  
統計数理研究所リスク解析戦略研究センター、  
独立行政法人統計センター（総務省）

■ 昨年(2014年)の後援：2団体、協賛：7団体に比較して  
今年(2015年)は、後援2団体、協賛8団体となり、昨年に引き続いて  
支援団体を増やすことができました。

これもひとえに関係者の皆様のご理解と努力のたまものと考えます。

■ 来年度の第12回大会でも、TRIZの認知度Upおよび参加者の増加を  
図るべき新たなイベント等の企画も、引き続き検討したいと思えます。

## ■ シンポジウム実行委員会

実行委員長：三原祐治

実行副委員長（兼会計担当）：津波古和司

実行委員（事務局）：池田理、福嶋洋次郎

実行委員（ポスターセッション担当）：緒方隆司、福嶋洋次郎

実行委員（スライド翻訳）：津波古和司、小西慶久

実行委員（広報担当）：前古護、広報委員会

プログラム委員長：小西慶久

プログラム委員：有田節男、坪倉紀子、澤口学

## ■ 開催準備協力

ポスター&パンフレットデザイン：志方淳子

開催準備：古謝秀明、長谷川陽一

## ■ 会場設営

TRIZ協会運営委員

（敬称略）

## 会場関係

今回のシンポジウム開催に当たり、会場の使用を快諾戴き、また種々の便宜を図って戴きました。

国立オリンピック記念青少年総合センターの関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

## 第11回日本TRIZシンポジウム 閉会にあたって

シンポジウムも予定された日程を終えました。

- 技術問題解決/ビジネス問題解決/リスクマネジメント・教育/社内展開などに対するTRIZの使い方（他の技法:QFD, TM, 機能系統図との組合せを含む）の充実した内容の発表が行われ、活発な討論が行われました。これも皆様のご協力があったのものであります。厚くお礼を申し上げます。

これらの知見を皆さんの所属機関に持ち帰って、TRIZの研究/利用/応用に役立てていただけるものと期待します。

- \* 運営面では、いくつか不行き届きな点もあったかと思えます。特に、A会場とB会場の移動に時間がかかり不便をかけたことは反省点であったと思えます。次回以降留意したいと思えます。



## 日本TRIZ協会からのお願いとお誘い

- TRIZシンポジウムでの活動はもとより、日本TRIZ協会の活動は会員ベースの公共的なボランティアベースの非営利法人活動で行われています。
- TRIZを、広く日本に普及し、それによる産業の発展をめざして、研究会活動の参加をはじめとして、TRIZ協会の活動に皆さんの積極的なご参加をお願いします。

### <研究会活動>

- 1) 知財創造研究分科会（主査：長谷川公彦氏）
- 2) ビジネス・経営TRIZ研究分科会（主査：吉澤郁雄氏）
- 3) 新しい時代のTRIZ教育分科会（主査：黒澤楨輔氏）

## 2016年第12回大会に向けて

■ 来年度は、第12回大会です。

- 日程：2016年9月第二週の8日(木) & 9日(金)または、第一週で調整中
- 場所：例年通り首都圏で開催予定(数力所の候補地から近々に決定予定)

■ 来年度も可能な限り特別企画等も継続して実施していく所存です。

今から、日程調整をお考えください。

次回のシンポジウムには是非発表をお願いします。

→ 今から発表に向けて準備をお願いします。

と同時に、今年同様活発な意見交換をお願いします。

- ◆ 来年のシンポジウムのためにも、「アンケートの記入」にご協力をお願いします。
- ◆ 「あなたにとって良かった発表」の投票をお願いします。
- ◆ また「名札の回収」にご協力ください。

第11回日本TRIZシンポジウム2015へのご参加を頂き誠にありがとうございました。  
あらためてお礼申し上げます。



気をつけてお帰りください

来場者の安全を第一に  
お帰りの安全を第一に  
お帰りの安全を第一に  
お帰りの安全を第一に  
お帰りの安全を第一に  
お帰りの安全を第一に  
お帰りの安全を第一に  
お帰りの安全を第一に